

| | | | |
|---|-------------------------|----------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046101) 韓国語 I (1) Korean I Korean I | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月3, 木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 平 水晶 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 韓国語 I の (1) から (5) の5クラスはいずれも同内容である。はじめて韓国語を学ぶ人を対象とする。文字・発音の習得に力点をおきながら、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 | | | |
| 基本的な構文による平易な内容について韓国語の基礎能力を養成する。韓国語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語話者には入りやすい外国語である。しかしながら、外国語である以上、手を抜かずに努力をしなければならないことは他の外国語の場合と同じである。そうした地道な努力を積み重ねた受講生が、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができるようにする。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| はじめて韓国語を学ぶ人が、韓国語と固有の文字 (ハングル) の基本的特徴を理解する。ハングルの正確に書け、発音できるようになる。文法的には最も基本の文法 (「～は」「～が」といった助詞や、「～です/ます」丁寧語尾) を学ぶ。基本的な単語を覚える。終了時にハングル能力検定 5 級程度の能力を獲得できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| 平常点 (出欠・遅刻、宿題、授業中に行う小テストなど) と期末試験を総合し決定する。頻繁な遅刻、欠席、私語、睡眠、携帯メール操作、クラス全体の学ぼうとする雰囲気害する行為、その他受講態度に問題ありと判断した場合、学期途中でも不可とする、ないし授業への参加を断る場合があるので注意すること。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| ハングルの正しく書け、発音できるようになると同時に基本的な単語を覚える。授業時間内だけで初めて学ぶ新しい文字とその発音を覚えることはできないので、履修生各自が前回内容を復習した上で毎回の授業の臨むことが必須となる。常に口を動かし (発音・発話練習)、手を動かして (正しいスペルで書き、正しく活用させる練習) 学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。 | | | |
| 第1回 (初回) は、オリエンテーション、韓国語の概説を行った上で、第1課に入り、基本母音字、あいさつことば (こんにちは) の練習を行う。文字・発音について概ねの習得が得られたところで、「～は」「～が」などの基本的な助詞の学習を並行して進める。そののちに、「～です/ます」 (動詞や形容詞などの用言の丁寧活用) など基礎的な文法事項の学習を学んでいく。 | | | |
| 授業中にもテストを行い、クラスの理解度を確認しながら、進度を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認して進度を進め、クラスの大半にとって適度な速度で進度を進める (予復習を怠るごく一部の学生にあわせるのではない)。テストの前は時間をとってテスト準備をすること。 | | | |
| 最後の回はまとめを行う。または、定期試験の場合もある。 | | | |
| 教科書・参考書等 | | | |
| テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年は、李潤玉ほか『韓国語の世界へ—入門編—』 (朝日出版社) を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。 | | | |
| オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員 (宮島のみ) の場合は研究室 (南4号館2階) に対応する。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ | | | |
| テストで存在しないハングル (自分で勝手に作ったハングルらしきもの) を書く学生がいる。初めて学ぶ文字の習得を甘く考え、授業時間以外に復習の時間を持つことを怠れば、この授業をパスすることは困難である。このことを理解している人だけが履修すること。また「韓国語は日本語に似ていて簡単そう」という思い込みを捨て、初めて学ぶ外国語として真剣に取り組まないと入口の段階で挫折することになる。基礎段階からしっかり取り組んでほしい。 | | | |

| | | | |
|---|-------------------------|----------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046102) 韓国語 I (2) Korean I Korean I | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月3, 木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 谷崎 美津子 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 韓国語 I の (1) から (5) の5クラスはいずれも同内容である。はじめて韓国語を学ぶ人を対象とする。文字・発音の習得に力点をおきながら、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 | | | |
| 基本的な構文による平易な内容について韓国語の基礎能力を養成する。韓国語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語話者には入りやすい外国語である。しかしながら、外国語である以上、手を抜かずに努力をしなければならないことは他の外国語の場合と同じである。そうした地道な努力を積み重ねた受講生が、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができるようにする。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| はじめて韓国語を学ぶ人が、韓国語と固有の文字 (ハングル) の基本的特徴を理解する。ハングルの正確に書け、発音できるようになる。文法的には最も基本の文法 (「～は」「～が」といった助詞や、「～です/ます」丁寧語尾) を学ぶ。基本的な単語を覚える。終了時にハングル能力検定 5 級程度の能力を獲得できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| 平常点 (出欠・遅刻、宿題、授業中に行う小テストなど) と期末試験を総合し決定する。頻繁な遅刻、欠席、私語、睡眠、携帯メール操作、クラス全体の学ぼうとする雰囲気や害する行為、その他受講態度に問題ありと判断した場合、学期途中でも不可とする、ないし授業への参加を断る場合があるので注意すること。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| ハングルの正しく書け、発音できるようになると同時に基本的な単語を覚える。授業時間内だけで初めて学ぶ新しい文字とその発音を覚えることはできないので、履修生各自が前回内容を復習した上で毎回の授業の臨むことが必須となる。常に口を動かし (発音・発話練習)、手を動かして (正しいスペルで書き、正しく活用させる練習) 学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。 | | | |
| 第1回 (初回) は、オリエンテーション、韓国語の概説を行った上で、第1課に入り、基本母音字、あいさつことば (こんにちは) の練習を行う。文字・発音について概ねの習得が得られたところで、「～は」「～が」などの基本的な助詞の学習を並行して進める。そののちに、「～です/ます」 (動詞や形容詞などの用言の丁寧活用) など基礎的な文法事項の学習を学んでいく。 | | | |
| 授業中にもテストを行い、クラスの理解度を確認しながら、進度を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認して進度を進め、クラスの大半にとって適度な速度で進度を進める (予復習を怠るごく一部の学生にあわせるのではない)。テストの前は時間をとってテスト準備をすること。 | | | |
| 最後の回はまとめを行う。または、定期試験の場合もある。 | | | |
| 教科書・参考書等 | | | |
| テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年は、李潤玉ほか『韓国語の世界へ—入門編—』 (朝日出版社) を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。 | | | |
| オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員 (宮島のみ) の場合は研究室 (南4号館2階) に対応する。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ | | | |
| テストで存在しないハングル (自分で勝手に作ったハングルらしきもの) を書く学生がいる。初めて学ぶ文字の習得を甘く考え、授業時間以外に復習の時間を持つことを怠れば、この授業をパスすることは困難である。このことを理解している人だけが履修すること。また「韓国語は日本語に似ていて簡単そう」という思い込みを捨て、初めて学ぶ外国語として真剣に取り組まないと入口の段階で挫折することになる。基礎段階からしっかり取り組んでほしい。 | | | |

| | | | |
|---|-------------------------|----------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046103) 韓国語 I (3) Korean I Korean I | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月3, 木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 宮島 美花 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 韓国語 I の (1) から (5) の5クラスはいずれも同内容である。はじめて韓国語を学ぶ人を対象とする。文字・発音の習得に力点をおきながら、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 | | | |
| 基本的な構文による平易な内容について韓国語の基礎能力を養成する。韓国語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語話者には入りやすい外国語である。しかしながら、外国語である以上、手を抜かずに努力をしなければならないことは他の外国語の場合と同じである。そうした地道な努力を積み重ねた受講生が、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができるようにする。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| はじめて韓国語を学ぶ人が、韓国語と固有の文字 (ハングル) の基本的特徴を理解する。ハングルの正確に書け、発音できるようになる。文法的には最も基本の文法 (「～は」「～が」といった助詞や、「～です/ます」丁寧語尾) を学ぶ。基本的な単語を覚える。終了時にハングル能力検定 5 級程度の能力を獲得できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| 平常点 (出欠・遅刻、宿題、授業中に行う小テストなど) と期末試験を総合し決定する。頻繁な遅刻、欠席、私語、睡眠、携帯メール操作、クラス全体の学ぼうとする雰囲気や害する行為、その他受講態度に問題ありと判断した場合、学期途中でも不可とする、ないし授業への参加を断る場合があるので注意すること。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| ハングルの正しく書け、発音できるようになると同時に基本的な単語を覚える。授業時間内だけで初めて学ぶ新しい文字とその発音を覚えることはできないので、履修生各自が前回内容を復習した上で毎回の授業の臨むことが必須となる。常に口を動かし (発音・発話練習)、手を動かして (正しいスペルで書き、正しく活用させる練習) 学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。 | | | |
| 第1回 (初回) は、オリエンテーション、韓国語の概説を行った上で、第1課に入り、基本母音字、あいさつことば (こんにちは) の練習を行う。文字・発音について概ねの習得が得られたところで、「～は」「～が」などの基本的な助詞の学習を並行して進める。そののちに、「～です/ます」 (動詞や形容詞などの用言の丁寧活用) など基礎的な文法事項の学習を学んでいく。 | | | |
| 授業中にもテストを行い、クラスの理解度を確認しながら、進度を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認して進度を進め、クラスの大半にとって適度な速度で進度を進める (予復習を怠るごく一部の学生にあわせるのではない)。テストの前は時間をとってテスト準備をすること。 | | | |
| 最後の回はまとめを行う。または、定期試験の場合もある。 | | | |
| 教科書・参考書等 | | | |
| テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年は、李潤玉ほか『韓国語の世界へ—入門編—』 (朝日出版社) を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。 | | | |
| オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員 (宮島のみ) の場合は研究室 (南 4 号館 2 階) に対応する。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ | | | |
| テストで存在しないハングル (自分で勝手に作ったハングルらしきもの) を書く学生がいる。初めて学ぶ文字の習得を甘く考え、授業時間以外に復習の時間を持つことを怠れば、この授業をパスすることは困難である。このことを理解している人だけが履修すること。また「韓国語は日本語に似ていて簡単そう」という思い込みを捨て、初めて学ぶ外国語として真剣に取り組まないと入口の段階で挫折することになる。基礎段階からしっかり取り組んでほしい。 | | | |

| | | | |
|---|-------------------------|----------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046104) 韓国語 I (4) Korean I Korean I | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月4, 木3 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 宮島 美花 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語 I の (1) から (5) の5クラスはいずれも同内容である。はじめて韓国語を学ぶ人を対象とする。文字・発音の習得に力点をおきながら、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 基本的な構文による平易な内容について韓国語の基礎能力を養成する。韓国語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語話者には入りやすい外国語である。しかしながら、外国語である以上、手を抜かずに努力をしなければならないことは他の外国語の場合と同じである。そうした地道な努力を積み重ねた受講生が、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができるようにする。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| はじめて韓国語を学ぶ人が、韓国語と固有の文字 (ハングル) の基本的特徴を理解する。ハングルの正確に書け、発音できるようになる。文法的には最も基本の文法 (「～は」「～が」といった助詞や、「～です/ます」丁寧語尾) を学ぶ。基本的な単語を覚える。終了時にハングル能力検定 5 級程度の能力を獲得できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 平常点 (出欠・遅刻、宿題、授業中に行う小テストなど) と期末試験を総合し決定する。頻繁な遅刻、欠席、私語、睡眠、携帯メール操作、クラス全体の学ぼうとする雰囲気や害する行為、その他受講態度に問題ありと判断した場合、学期途中でも不可とする、ないし授業への参加を断る場合があるので注意すること。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 ハングルの正しく書け、発音できるようになると同時に基本的な単語を覚える。授業時間内だけで初めて学ぶ新しい文字とその発音を覚えることはできないので、履修生各自が前回内容を復習した上で毎回の授業の臨むことが必須となる。常に口を動かし (発音・発話練習)、手を動かして (正しいスペルで書き、正しく活用させる練習) 学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。 第1回 (初回) は、オリエンテーション、韓国語の概説を行った上で、第1課に入り、基本母音字、あいさつことば (こんにちは) の練習を行う。文字・発音について概ねの習得が得られたところで、「～は」「～が」などの基本的な助詞の学習を並行して進める。そののちに、「～です/ます」 (動詞や形容詞などの用言の丁寧活用) など基礎的な文法事項の学習を学んでいく。 授業中にもテストを行い、クラスの理解度を確認しながら、進度を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認して進度を進め、クラスの大半にとって適度な速度で進度を進める (予復習を怠るごく一部の学生にあわせるのではない)。テストの前は時間をとってテスト準備をすること。 最後の回はまとめを行う。または、定期試験の場合もある。 | | | |
| 教科書・参考書等 テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年は、李潤玉ほか『韓国語の世界へ—入門編—』 (朝日出版社) を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。 | | | |
| オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員 (宮島のみ) の場合は研究室 (南4号館2階) に対応する。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ テストで存在しないハングル (自分で勝手に作ったハングルらしきもの) を書く学生がいる。初めて学ぶ文字の習得を甘く考え、授業時間以外に復習の時間を持つことを怠れば、この授業をパスすることは困難である。このことを理解している人だけが履修すること。また「韓国語は日本語に似ていて簡単そう」という思い込みを捨て、初めて学ぶ外国語として真剣に取り組まないと入口の段階で挫折することになる。基礎段階からしっかり取り組んでほしい。 | | | |

| | | | |
|---|-------------------------|----------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046105) 韓国語 I (5) Korean I Korean I | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月4, 木3 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 崔 栄殊 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 韓国語 I の (1) から (5) の5クラスはいずれも同内容である。はじめて韓国語を学ぶ人を対象とする。文字・発音の習得に力点をおきながら、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 | | | |
| 基本的な構文による平易な内容について韓国語の基礎能力を養成する。韓国語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語話者には入りやすい外国語である。しかしながら、外国語である以上、手を抜かずに努力をしなければならないことは他の外国語の場合と同じである。そうした地道な努力を積み重ねた受講生が、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができるようにする。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| はじめて韓国語を学ぶ人が、韓国語と固有の文字 (ハングル) の基本的特徴を理解する。ハングルの正確に書け、発音できるようになる。文法的には最も基本の文法 (「～は」「～が」といった助詞や、「～です/ます」丁寧語尾) を学ぶ。基本的な単語を覚える。終了時にハングル能力検定 5 級程度の能力を獲得できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| 平常点 (出欠・遅刻、宿題、授業中に行う小テストなど) と期末試験を総合し決定する。頻繁な遅刻、欠席、私語、睡眠、携帯メール操作、クラス全体の学ぼうとする雰囲気や害する行為、その他受講態度に問題ありと判断した場合、学期途中でも不可とする、ないし授業への参加を断る場合があるので注意すること。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| ハングルの正しく書け、発音できるようになると同時に基本的な単語を覚える。授業時間内だけで初めて学ぶ新しい文字とその発音を覚えることはできないので、履修生各自が前回内容を復習した上で毎回の授業の臨むことが必須となる。常に口を動かし (発音・発話練習)、手を動かして (正しいスペルで書き、正しく活用させる練習) 学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。 | | | |
| 第1回 (初回) は、オリエンテーション、韓国語の概説を行った上で、第1課に入り、基本母音字、あいさつことば (こんにちは) の練習を行う。文字・発音について概ねの習得が得られたところで、「～は」「～が」などの基本的な助詞の学習を並行して進める。そののちに、「～です/ます」 (動詞や形容詞などの用言の丁寧活用) など基礎的な文法事項の学習を学んでいく。 | | | |
| 授業中にもテストを行い、クラスの理解度を確認しながら、進度を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認して進度を進め、クラスの大半にとって適度な速度で進度を進める (予復習を怠るごく一部の学生にあわせるのではない)。テストの前は時間をとってテスト準備をすること。 | | | |
| 最後の回はまとめを行う。または、定期試験の場合もある。 | | | |
| 教科書・参考書等 | | | |
| テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年は、李潤玉ほか『韓国語の世界へ—入門編—』 (朝日出版社) を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。 | | | |
| オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員 (宮島のみ) の場合は研究室 (南4号館2階) に対応する。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ | | | |
| テストで存在しないハングル (自分で勝手に作ったハングルらしきもの) を書く学生がいる。初めて学ぶ文字の習得を甘く考え、授業時間以外に復習の時間を持つことを怠れば、この授業をパスすることは困難である。このことを理解している人だけが履修すること。また「韓国語は日本語に似ていて簡単そう」という思い込みを捨て、初めて学ぶ外国語として真剣に取り組まないと入口の段階で挫折することになる。基礎段階からしっかり取り組んでほしい。 | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|----------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046201) 韓国語Ⅱ (1) Korean II Korean II | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 後期月3, 木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 崔 栄殊 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅱの(1)から(5)の5クラスはいずれも同内容である。前期に韓国語Ⅰを履修した人を対象とする。引き続き、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 前期に韓国語と固有の文字(ハングル)の基本的特徴を理解した初学者が、更に、発音と文法について学習を進める。鼻音化等の発音変化に対する理解を深め、発音の訓練をする。文法的には最も基本活用から、連体形、変則活用へと学び進める。基本的な単語を覚え、単語数を増やす。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語Ⅰの既習者が、基本的な表現や文法事項を更に学び進め、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができる。基本的な構文による平易な内容について、初級後半期から中級に入っていける程度の韓国語能力を養成し、終了時にハングル能力検定4級程度の能力を獲得できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 平常点(出欠・遅刻、宿題、授業中に行う小テストなど)と期末試験を総合し決定する。頻繁な遅刻、欠席、私語、睡眠、携帯メール操作、クラス全体の学ぼうとする雰囲気害する行為、その他受講態度に問題ありと判断した場合、学期途中でも不可とする、ないし授業への参加を断る場合があるので注意すること。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| 韓国語Ⅰで習得した基礎文法の上に立って、更に表現をふやす。各活用など新たな文法事項を学ぶ。挨拶を聞き取って対応する練習や、学んだ基礎文法を用いて、ないし応用し、表現する力を訓練する。常に口を動かし(発音・発話練習)、手を動かして(正しいスペルで書き、正しく活用させる練習)学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。 | | | |
| 今年度の前期「韓国語Ⅰ」使用した教科書の後続テキストを使用し学ぶ。第1回(初回)は、オリエンテーション、前期の復習を行いつつ、前期の先の新たな課を学習していく。「するつもりです」「してください」「してもいいですか」などの多様な表現や、基本活用の定着のうえに多様な変則活用を学ぶ。 | | | |
| 授業時間中にもテストを行い、クラスの理解度を確認しながら進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認し、クラスの大半にとって適切な速度で進歩を進める(予復習を怠るごく一部の学生に進歩を合わせるのではない)。小テストの前は事前に時間を取って、テスト準備を行うこと。 | | | |
| 最後の回はまとめを行う。または定期試験の場合もある。 | | | |
| 教科書・参考書等 テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年度の「韓国語Ⅰ」での使用テキストの後続テキストである李潤玉ほか『韓国語の世界へ—初中級編—』(朝日出版社)を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。 | | | |
| オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員(宮島)の場合は研究室(南4号館2階)に対応する。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 各自、発音練習に教材のCDを有効に活用すること。 | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|---------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046202) 韓国語Ⅱ (2) Korean II Korean II | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 後期月3,木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局:大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 谷崎 美津子 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅱの(1)から(5)の5クラスはいずれも同内容である。前期に韓国語Ⅰを履修した人を対象とする。引き続き、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 前期に韓国語と固有の文字(ハングル)の基本的特徴を理解した初学者が、更に、発音と文法について学習を進める。鼻音化等の発音変化に対する理解を深め、発音の訓練をする。文法的には最も基本活用から、連体形、変則活用へと学び進める。基本的な単語を覚え、単語数を増やす。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語Ⅰの既習者が、基本的な表現や文法事項を更に学び進め、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができる。基本的な構文による平易な内容について、初級後半期から中級に入っていける程度の韓国語能力を養成し、終了時にハングル能力検定4級程度の能力を獲得できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 平常点(出欠・遅刻、宿題、授業中に行う小テストなど)と期末試験を総合し決定する。頻繁な遅刻、欠席、私語、睡眠、携帯メール操作、クラス全体の学ぼうとする雰囲気を害する行為、その他受講態度に問題ありと判断した場合、学期途中でも不可とする、ないし授業への参加を断る場合があるので注意すること。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| 韓国語Ⅰで習得した基礎文法の上に立って、更に表現をふやす。各活用など新たな文法事項を学ぶ。挨拶を聞き取って対応する練習や、学んだ基礎文法を用いて、ないし応用し、表現する力を訓練する。常に口を動かし(発音・発話練習)、手を動かして(正しいスペルで書き、正しく活用させる練習)学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。 | | | |
| 今年度の前期「韓国語Ⅰ」を使用した教科書の後続テキストを使用し学ぶ。第1回(初回)は、オリエンテーション、前期の復習を行いつつ、前期の先の新たな課を学習していく。「するつもりです」「してください」「してもいいですか」などの多様な表現や、基本活用の定着のうえに多様な変則活用を学ぶ。 | | | |
| 授業時間中にもテストを行い、クラスの理解度を確認しながら進を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認し、クラスの大半にとって適切な速度で進を進める(予復習を怠るごく一部の学生に進度を合わせるのではない)。小テストの前は事前に時間を取って、テスト準備を行うこと。 | | | |
| 最後の回はまとめを行う。または定期試験の場合もある。 | | | |
| 教科書・参考書等 テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年度の「韓国語Ⅰ」での使用テキストの後続テキストである李潤玉ほか『韓国語の世界へ—初中級編—』(朝日出版社)を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。 | | | |
| オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員(宮島)の場合は研究室(南4号館2階)に対応する。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 各自、発音練習に教材のCDを有効に活用すること。 | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|----------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046203) 韓国語Ⅱ (3) Korean II Korean II | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 後期月3, 木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 平 水晶 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 韓国語Ⅱの(1)から(5)の5クラスはいずれも同内容である。前期に韓国語Ⅰを履修した人を対象とする。引き続き、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 | | | |
| 前期に韓国語と固有の文字(ハングル)の基本的特徴を理解した初学者が、更に、発音と文法について学習を進める。鼻音化等の発音変化に対する理解を深め、発音の訓練をする。文法的には最も基本活用から、連体形、変則活用へと学び進める。基本的な単語を覚え、単語数を増やす。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語Ⅰの既習者が、基本的な表現や文法事項を更に学び進め、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができる。基本的な構文による平易な内容について、初級後半期から中級に入っていける程度の韓国語能力を養成し、終了時にハングル能力検定4級程度の能力を獲得できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| 平常点(出欠・遅刻・宿題、授業中に行う小テストなど)と期末試験を総合し決定する。頻繁な遅刻、欠席、私語、睡眠、携帯メール操作、クラス全体の学ぼうとする雰囲気害する行為、その他受講態度に問題ありと判断した場合、学期途中でも不可とする、ないし授業への参加を断る場合があるので注意すること。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| 韓国語Ⅰで習得した基礎文法の上に立って、更に表現をふやす。各活用など新たな文法事項を学ぶ。挨拶を聞き取って対応する練習や、学んだ基礎文法を用いて、ないし応用し、表現する力を訓練する。常に口を動かし(発音・発話練習)、手を動かして(正しいスペルで書き、正しく活用させる練習)学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。 | | | |
| 今年度の前期「韓国語Ⅰ」使用した教科書の後続テキストを使用し学ぶ。第1回(初回)は、オリエンテーション、前期の復習を行いつつ、前期の先の新たな課を学習していく。「するつもりです」「してください」「してもいいですか」などの多様な表現や、基本活用の定着のうえに多様な変則活用を学ぶ。 | | | |
| 授業時間中にもテストを行い、クラスの理解度を確認しながら進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認し、クラスの大半にとって適切な速度で進歩を進める(予復習を怠るごく一部の学生に進歩を合わせるのではない)。小テストの前は事前に時間を取って、テスト準備を行うこと。 | | | |
| 最後の回はまとめを行う。または定期試験の場合もある。 | | | |
| 教科書・参考書等 | | | |
| テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年度の「韓国語Ⅰ」での使用テキストの後続テキストである李潤玉ほか『韓国語の世界へ—初中級編—』(朝日出版社)を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。 | | | |
| オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員(宮島)の場合は研究室(南4号館2階)で対応する。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ | | | |
| 各自、発音練習に教材のCDを有効に活用すること。 | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|----------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046204) 韓国語Ⅱ (4) Korean II Korean II | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 後期月4, 木3 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 平 水晶 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 韓国語Ⅱの(1)から(5)の5クラスはいずれも同内容である。前期に韓国語Ⅰを履修した人を対象とする。引き続き、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 | | | |
| 前期に韓国語と固有の文字(ハングル)の基本的特徴を理解した初学者が、更に、発音と文法について学習を進める。鼻音化等の発音変化に対する理解を深め、発音の訓練をする。文法的には最も基本活用から、連体形、変則活用へと学び進める。基本的な単語を覚え、単語数を増やす。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語Ⅰの既習者が、基本的な表現や文法事項を更に学び進め、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができる。基本的な構文による平易な内容について、初級後半期から中級に入っていける程度の韓国語能力を養成し、終了時にハングル能力検定4級程度の能力を獲得できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| 平常点(出欠・遅刻、宿題、授業中に行う小テストなど)と期末試験を総合し決定する。頻繁な遅刻、欠席、私語、睡眠、携帯メール操作、クラス全体の学ぼうとする雰囲気害する行為、その他受講態度に問題ありと判断した場合、学期途中でも不可とする、ないし授業への参加を断る場合があるので注意すること。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| 韓国語Ⅰで習得した基礎文法の上に立って、更に表現をふやす。各活用など新たな文法事項を学ぶ。挨拶を聞き取って対応する練習や、学んだ基礎文法を用いて、ないし応用し、表現する力を訓練する。常に口を動かし(発音・発話練習)、手を動かして(正しいスペルで書き、正しく活用させる練習)学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。 | | | |
| 今年度の前期「韓国語Ⅰ」使用した教科書の後続テキストを使用し学ぶ。第1回(初回)は、オリエンテーション、前期の復習を行いつつ、前期の先の新たな課を学習していく。「するつもりです」「してください」「してもいいですか」などの多様な表現や、基本活用の定着のうえに多様な変則活用を学ぶ。 | | | |
| 授業時間中にもテストを行い、クラスの理解度を確認しながら進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認し、クラスの大半にとって適切な速度で進歩を進める(予復習を怠るごく一部の学生に進度を合わせるのではない)。小テストの前は事前に時間を取って、テスト準備を行うこと。 | | | |
| 最後の回はまとめを行う。または定期試験の場合もある。 | | | |
| 教科書・参考書等 | | | |
| テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年度の「韓国語Ⅰ」での使用テキストの後続テキストである李潤玉ほか『韓国語の世界へー初中級編一』(朝日出版社)を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。 | | | |
| オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員(宮島)の場合は研究室(南4号館2階)に対応する。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ | | | |
| 各自、発音練習に教材のCDを有効に活用すること。 | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|----------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046205) 韓国語Ⅱ (5) Korean II Korean II | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 後期月4, 木3 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 谷崎 美津子 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅱの(1)から(5)の5クラスはいずれも同内容である。前期に韓国語Ⅰを履修した人を対象とする。引き続き、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 前期に韓国語と固有の文字(ハングル)の基本的特徴を理解した初学者が、更に、発音と文法について学習を進める。鼻音化等の発音変化に対する理解を深め、発音の訓練をする。文法的には最も基本活用から、連体形、変則活用へと学び進める。基本的な単語を覚え、単語数を増やす。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語Ⅰの既習者が、基本的な表現や文法事項を更に学び進め、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができる。基本的な構文による平易な内容について、初級後半期から中級に入っていける程度の韓国語能力を養成し、終了時にハングル能力検定4級程度の能力を獲得できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 平常点(出欠・遅刻、宿題、授業中に行う小テストなど)と期末試験を総合し決定する。頻繁な遅刻、欠席、私語、睡眠、携帯メール操作、クラス全体の学ぼうとする雰囲気害する行為、その他受講態度に問題ありと判断した場合、学期途中でも不可とする、ないし授業への参加を断る場合があるので注意すること。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| 韓国語Ⅰで習得した基礎文法の上に立って、更に表現をふやす。各活用など新たな文法事項を学ぶ。挨拶を聞き取って対応する練習や、学んだ基礎文法を用いて、ないし応用し、表現する力を訓練する。常に口を動かし(発音・発話練習)、手を動かして(正しいスペルで書き、正しく活用させる練習)学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。 | | | |
| 今年度の前期「韓国語Ⅰ」使用した教科書の後続テキストを使用し学ぶ。第1回(初回)は、オリエンテーション、前期の復習を行いつつ、前期の先の新たな課を学習していく。「するつもりです」「してください」「してもいいですか」などの多様な表現や、基本活用の定着のうえに多様な変則活用を学ぶ。 | | | |
| 授業時間中にもテストを行い、クラスの理解度を確認しながら進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認し、クラスの大半にとって適切な速度で進歩を進める(予復習を怠るごく一部の学生に進度を合わせるのではない)。小テストの前は事前に時間を取って、テスト準備を行うこと。 | | | |
| 最後の回はまとめを行う。または定期試験の場合もある。 | | | |
| 教科書・参考書等 テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年度の「韓国語Ⅰ」での使用テキストの後続テキストである李潤玉ほか『韓国語の世界へー初中級編ー』(朝日出版社)を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。 | | | |
| オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員(宮島)の場合は研究室(南4号館2階)で対応する。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 各自、発音練習に教材のCDを有効に活用すること。 | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|----------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046206) 韓国語Ⅱ (6) Korean II Korean II | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 後期月4, 木3 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 宮島 美花 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅱの(1)から(5)の5クラスはいずれも同内容である。前期に韓国語Ⅰを履修した人を対象とする。引き続き、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 前期に韓国語と固有の文字(ハングル)の基本的特徴を理解した初学者が、更に、発音と文法について学習を進める。鼻音化等の発音変化に対する理解を深め、発音の訓練をする。文法的には最も基本活用から、連体形、変則活用へと学び進める。基本的な単語を覚え、単語数を増やす。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語Ⅰの既習者が、基本的な表現や文法事項を更に学び進め、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができる。基本的な構文による平易な内容について、初級後半期から中級に入っていける程度の韓国語能力を養成し、終了時にハングル能力検定4級程度の能力を獲得できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 平常点(出欠・遅刻、宿題、授業中に行う小テストなど)と期末試験を総合し決定する。頻繁な遅刻、欠席、私語、睡眠、携帯メール操作、クラス全体の学ぼうとする雰囲気害する行為、その他受講態度に問題ありと判断した場合、学期途中でも不可とする、ないし授業への参加を断る場合があるので注意すること。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| 韓国語Ⅰで習得した基礎文法の上に立って、更に表現をふやす。各活用など新たな文法事項を学ぶ。挨拶を聞き取って対応する練習や、学んだ基礎文法を用いて、ないし応用し、表現する力を訓練する。常に口を動かし(発音・発話練習)、手を動かして(正しいスペルで書き、正しく活用させる練習)学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。 | | | |
| 今年度の前期「韓国語Ⅰ」使用した教科書の後続テキストを使用し学ぶ。第1回(初回)は、オリエンテーション、前期の復習を行いつつ、前期の先の新たな課を学習していく。「するつもりです」「してください」「してもいいですか」などの多様な表現や、基本活用の定着のうえに多様な変則活用を学ぶ。 | | | |
| 授業時間中にもテストを行い、クラスの理解度を確認しながら進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認し、クラスの大半にとって適切な速度で進歩を進める(予復習を怠るごく一部の学生に進度を合わせるのではない)。小テストの前は事前に時間を取って、テスト準備を行うこと。 | | | |
| 最後の回はまとめを行う。または定期試験の場合もある。 | | | |
| 教科書・参考書等 テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年度の「韓国語Ⅰ」での使用テキストの後続テキストである李潤玉ほか『韓国語の世界へー初中級編一』(朝日出版社)を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。 | | | |
| オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員(宮島)の場合は研究室(南4号館2階)に対応する。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 各自、発音練習に教材のCDを有効に活用すること。 | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|---------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 046301) 韓国語Ⅲ (1) Korean III Korean III | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月2 | 対象年次 2～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局:大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 1 | |
| 担当教員名 谷崎 美津子 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象とする。韓国語Ⅰ・Ⅱで学んだ韓国語の基礎を活かし、更に、その基礎の上に立って、より進んだ文法や表現を学習する。 | | | |
| 授業の目的 韓国語Ⅰ・Ⅱで習得した韓国語の基礎知識を用いて、読み、書き、聞き取り、話す力から成る総合的な韓国語力、特に、読み、書く力を向上させる。 日常生活に必要な会話能力・文法知識を養成し、更に基礎文法を用いて応用できることを目的とする(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| ハングル能力検定試験4級～3級レベルを到達目標とする。 読み、書き、聞き取り、話す、のそれぞれで、同上レベルの実力を持つことができる。 日常的に使用される簡単な文章を読んで理解できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 平常点(出席、レポート・課題など)、授業中に行うテスト(小テスト・中間テスト)、期末試験を総合し決定する。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 第1回～第15回 テキストを用いた授業 自学自習:テキスト対応箇所 第16回 期末試験 授業においても、自学自習においても、口を動かし(発音・発話練習)、手を動かして(正しいスペルで書き、正しく活用させる練習)、学ぶことが肝要である。 従って、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。 | | | |
| 教科書・参考書等 テキストを生協書店で購入のこと。テキストは、陸宗均・須賀井義教・小島大輝著『ロールプレイで学ぶ韓国語』(白水社)を使用する。 | | | |
| オフィスアワー 授業後の休み時間に対応する。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業のレベルとして「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」の単位を取得済みの学生(=「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」の内容は習得済み)を対象とした授業を行う。 | | | |

| | | | |
|---|-------------------------|---------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 046302) 韓国語Ⅲ (2) Korean III Korean III | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期木3 | 対象年次 2～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局:大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 1 | |
| 担当教員名 谷崎 美津子 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象とする。韓国語Ⅰ・Ⅱで学んだ韓国語の基礎を活かし、更に、その基礎の上に立って、より進んだ文法や表現を学習する。 | | | |
| 授業の目的 韓国語Ⅰ・Ⅱで習得した韓国語の基礎知識を用いて、読み、書き、聞き取り、話す力から成る総合的な韓国語力、特に、読み、書く力を向上させる。 日常生活に必要な会話能力・文法知識を養成し、更に基礎文法を用いて応用できることを目的とする(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| ハングル能力検定試験4級～3級レベルを到達目標とする。 読み、書き、聞き取り、話す、のそれぞれで、同上レベルの実力を持つことができる。 日常的に使用される簡単な文章を読んで理解できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 平常点(出席、レポート・課題など)、授業中に行うテスト(小テスト・中間テスト)、期末試験を総合し決定する。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| 第1回～第15回 テキストを用いた授業 自学自習:テキスト対応箇所 第16回 期末試験 | | | |
| 授業においても、自学自習においても、口を動かし(発音・発話練習)、手を動かして(正しいスペルで書き、正しく活用させる練習)、学ぶことが肝要である。 従って、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。 | | | |
| 教科書・参考書等 テキストを生協書店で購入のこと。テキストは、陸宗均・須賀井義教・小島大輝著『ロールプレイで学ぶ韓国語』(白水社)を使用する。 | | | |
| オフィスアワー 授業後の休み時間に対応する。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業のレベルとして「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」の単位を取得済みの学生(=「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」の内容は習得済み)を対象とした授業を行う。 | | | |

| | | | |
|---|-------------------------|--------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:046401) 韓国語会話Ⅲ (1) Korean Conversation Ⅲ Korean Ⅲ | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月2 | 対象年次 2～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局:大教センター DPコード:abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 1 | |
| 担当教員名 平 水晶 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間) | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象とした、韓国語会話の授業である。 | | | |
| 授業の目的 | | | |
| 韓国語で、日常生活に必要な、基本的な会話ができるようになることを目的とする(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語で、日常的に必要な、基本的な会話ができる。 レベル的には、ハングル能力検定試験4級～3級、ないし韓国語能力試験2級レベルを到達目標とする。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| 平常点(出席や課題など)、授業中に行う小テスト・中間テスト、期末試験を総合し決定する。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| 会話を中心とした授業であるので、受講生の積極的な参加を求める。 テキストを使った予習・復習も重視する。 | | | |
| 第1回 インTRODクシヨン、授業の概要説明 第2回～4回 会話の基礎 第5回 小テスト 第6回～9回 日常会話(基礎) 第10回 小テスト 第11回～15回 日常会話(応用) 第16回 期末テスト | | | |
| 各回とも、テキスト対応箇所を自学自習すること。 | | | |
| 教科書・参考書等 | | | |
| 初回授業で指示する。 辞書についても授業内の案内に従うこと。 | | | |
| オフィスアワー 授業後の休み時間に対応する。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ | | | |
| 授業のレベルとして、韓国語Ⅰ・Ⅱの単位が取得済み(=韓国語Ⅰ・Ⅱの内容が習得済みである)である者を対象とした授業を行う。「韓国語会話Ⅲ」は「韓国語会話Ⅲ(1)」と「韓国語会話Ⅲ(2)」のどちらか1つを履修すること(2つを履修することはできない)。 | | | |

| | | | |
|---|-------------------------|---------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 046402) 韓国語会話Ⅲ (2) Korean Conversation Ⅲ Korean Ⅲ | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期木3 | 対象年次 2～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局:大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 1 | |
| 担当教員名 平 水晶 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間) | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象とした、韓国語会話の授業である。 | | | |
| 授業の目的 | | | |
| 韓国語で、日常生活に必要な、基本的な会話ができるようになることを目的とする(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語で、日常的に必要な、基本的な会話ができる。 レベル的には、ハングル能力検定試験4級～3級、ないし韓国語能力試験2級レベルを到達目標とする。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| 平常点(出席や課題など)、授業中に行う小テスト・中間テスト、期末試験を総合し決定する。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| 会話を中心とした授業であるので、受講生の積極的な参加を求める。 テキストを使った予習・復習も重視する。 | | | |
| 第1回 インTRODクシヨン、授業の概要説明 第2回～4回 会話の基礎 第5回 小テスト 第6回～9回 日常会話(基礎) 第10回 小テスト 第11回～15回 日常会話(応用) 第16回 期末テスト | | | |
| 各回とも、テキスト対応箇所を自学自習すること。 | | | |
| 教科書・参考書等 | | | |
| 初回授業で指示する。 辞書についても授業内の案内に従うこと。 | | | |
| オフィスアワー 授業後の休み時間に対応する。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ | | | |
| 授業のレベルとして、韓国語Ⅰ・Ⅱの単位が取得済み(=韓国語Ⅰ・Ⅱの内容が習得済みである)である者を対象とした授業を行う。「韓国語会話Ⅲ」は「韓国語会話Ⅲ(1)」と「韓国語会話Ⅲ(2)」のどちらか1つを履修すること(2つを履修することはできない)。 | | | |